

ザレドクロス みずうみ

日本赤十字社島根県支部 みずうみ赤十字奉仕団



日本赤十字社島根県支部

事業推進課長 天野 仁 美

できる時に、できることを、無理するにじやなく!!!

無理するにじやなく!!!

みずうみ赤十字奉仕団が創立（昭和三十一年三月十日）して、六十一年が過ぎようとしています。委員長も現在五代目。月日の経つことの早いこと。

私がみずうみ赤十字奉仕団員の方々と一緒に活動し始めたのは、平成五年四月からでした。まだ、みずうみ赤十字奉仕団のことも、団員の皆さまの名前と顔がはつきりわからない五月の赤十字運動月間のことです。松江市運動公園で「赤十字の広場 in 松江市」が開催され、バザーコーナーでのことでした。後片付けのさなか、きゅつきゅつと机上を雑巾で拭き、机をてきぱきと折りたたんでいる方々がおられました。みずうみ赤十字奉仕団員の皆さままでした。「なーんて手際の良い!!!」感激したものでした。（確かに団員の平均年齢は...? 若かったと思いますが。）

みずうみ赤十字奉仕団のお世話をさせていただくことにより、いろいろな「出会い」から学ぶことが多くありました。松徳学院高校生徒との

交流の中でレシピを教えてくださいました方、人とおつきあいのポイントを教えてくださいました方等、大（だ）い先輩のお話は何うだけでもすべて身になりました。おかげで今でもたくさんの方々のことを団員の方々から教わっています。

団員さんから、

「団員だったお母様をみていたから、入団したんです」

「お義母さまに誘われて...」

「友達と一緒にボランティアをしない? と声をかけられて...」

「姑に言う外出するいい口実が、みずうみ赤十字奉仕団活動だったの...」など嬉しいお言葉を聞くこともできました。

活動の形は変わってきているけれど、団員のお顔は違っているけれど、ずっと続いている「松徳学院生徒との交流」や「年末の募金活動」、「特別養護老人ホームへの支援」。

ボランティア活動は、いつでも、どこでも、誰でも、できるものです。でも、無理は禁物。ご自分の体調がよ

くて、できる時に、できることをしましょう。身体を動かすだけでなく、「赤十字活動資金・団費で奉仕を」と言われる団員の方もいらつしやいますよね。それも奉仕の一つでしょう。

赤十字奉仕団員信条にあるように、一人でできなければ、二人で。ふたりでむずかしそうなら三人で...それでも無理なら他の団員の方を誘って...と助けあって、無理なく気楽にみずうみ赤十字奉仕団活動をしてみませんか。

日本赤十字社島根県支部はもちろん、わたしも一緒に応援します。支部が、皆さまにずいぶんおんぶに抱っこで支えていただいていることにとても感謝しています。これから、無理なく一緒になって赤十字を支援してください。

健康が一番です。身体に気をつけて、ご自分の生活を守りながら、できる時にできることをしてみよう。私は、みずうみ赤十字奉仕団の皆さまが大好きです。

赤十字奉仕団員信条

- 一、常にくふうして、人びとのため
- に、よりよい奉仕ができるよう努める。
- 一、身近な奉仕をひろげ、すべての人びとと手をつないで、人びとに奉仕する。
- 一、すべての人びとのしあわせをねがい、陰の力となって、世界の平和につくす。

学びと希望

島根県青少年赤十字賛助奉仕団

委員長 川津愛子

みずうみ奉仕団の皆さま、こんにちは。近年、「3・11」募金活動や救急法講習会等を一緒にさせていただき、改めて貴奉仕団への敬愛の思いを深くしております。

私たちは学校で子どもたちと青少年赤十字活動を共にした元教員と日赤島根県支部元職員の皆さんの、結成十四年目、三十人ばかりの奉仕団です。退職後も、私たちの心をとらえて離さない子どもたちから沢山の学びをもらっています。

今年、松江市の成人式にご案内をいただきました。千六百人余の新成人たちが放つ輝きを目の当たりにし、私が一番感動したのは、自身、高校での挫折を乗り越えてこの日を迎えたという実行委員長の素直な感謝と決意の言葉でした。若干のひんしゆくを買った数



本庄小「いとすぎ」前で
前列中央が川津委員長

人の若者の言動もありましたが、それも含めて未来への希望を感じ、ルイ・アラゴンの詩の一節、「学ぶとは胸に誠実を刻むこと。教えるとは共に希望を語ること」を思い浮かべました。

今年もみずうみの皆さまと学び、希望が語れますように。よろしくお願いいたします。

赤十字の設立

一八五九年六月二十四日、北イタリアの解放を目指した伊仏連合軍は、ソルフェリーノでオーストリア軍に決戦を挑みロンバルディアを奪還しました。ソルフェリーノの糸杉の丘は四万人の死傷者で埋め尽くされました。

そこに遭遇したスイス人実業家アンリー・デュナンは「傷ついた兵士はもはや兵士ではない。一人の人間だ。敵味方の区別なく救護する」の理念のもと六十二年五人委員会を設立、六十四年ジュネーブ条約（赤十字条約）が調印され、国際的赤十字組織が発足しました。

（赤十字思想の象徴であるソルフェリーノの糸杉の種が、赤十字思想誕生百年記念に日本赤十字社に寄贈され、国内各支部へ配布されました。当県では、賛助奉仕団の故寛弘仲氏が育苗に心血を注がれ、本田坦氏が県内学校への配布に尽力されたそうです。本庄小学校では、糸杉は五十年以上もの間大切に守られ、今や三十メートルの巨木に成長しています。

賛助奉仕団会報「いとすぎしまね」参照

太田 記

戦争犠牲者慰霊塔清掃・供養

（午前）参加 十名

古布ふきんづくり

（午後）参加十四名

九月十六日（金）

戦争犠牲者供養に思うこと

佐藤 信子

今から五十五年前の十二月中頃のこと、松江に居た義父が口から食べ物が入らない体調と聞いて、鳥取から駆けつけ義父の枕元に…。

声にならない口元が動いている。耳を近づけた私に、かすかな、とぎれとぎれの声で、「わしが死んでものー、わしを弔わんでええけん、戦死したもんを弔うてごせの…」と。

ずーと思い続けて居られたのでしよう。不思議に思ったのは、枕元の傷ついた茶色の水筒でした。

遺品の中に、明治三十年一月十八日記「一生の日記」（百三十一頁）があり、日支事変、大東亜戦争の参戦時、終戦時の体験が記録してありました。その中に、水筒が銃弾を遮って、命が助かった事が記載されていました。

「あ、あの水筒のお陰で命拾いされたんだ」と思うと共に、亡くなられた多くの兵士の方々を想い続けていた義父の温かい人柄を偲びました。今もその水筒と手のひらサイズの軍隊手帳など、日記と共に私が保管しています。

救急法競技大会に参加して

大和 友子

第七回赤十字救急法競技大会が十月十六日(日) 県立武道館において行われました。心肺蘇生の部と三角巾包帯法の部があり、みずうみ赤十字奉仕団の外、青少年赤十字賛助奉仕団、平田高校、翔陽高校、(株) 佐藤組など十七チームが出場しました。

メンバーが一人足りないからと言われてお断りしきれず、傷病者役ならばと、メンバーに入れて頂きました。

大会は回を重ねるほど、競技者の技術が向上して、僅かな差で勝敗が分かれるそうですから、私が思っていた以上に皆さん熱心に練習されました。その結果、Aチームは特別賞をいただきました。

傷病者役は、出来上がりを見栄え良く見せなければなりません、私は腰が痛い、膝が痛いという頼りない傷病



包帯法練習風景

者役でした。来年は是非若くて元気のいい方が参加して、頑張つて頂きたいと思っています。

この大会に参加するにあたり、賛助奉仕団の皆さんと練習を通して交流でき、充実した時間を持つことができました。

又、練習した成果を、日常生活の中で活かされるようになるといいと思います。貴重な体験をさせていただき

Aチーム

大塚 良子

吉岡 信子

太田 裕子

Bチーム

松本 淑子

青木 八重子

大和 友子

の皆さんでした。



救急法競技大会



楽しく古布ふきん作り



来園者と一緒に法要



清掃

毎年行われるみずうみ赤十字奉仕団の戦没者慰霊供養に参加させて戴いています。当日は公園でグランドゴルフをされていた方々も多数法要に加わって下さいました。その人達や団員の真心を戦争犠牲の皆様は喜び下さっていると思います。

昨年十二月NHKテレビで「東京裁判」のドラマが放映されました。同じ月、日本・ロシア首脳会談も行われました。戦後七十年余り続いた平和も危うさを感じます。日本を取り巻く世界の動きに関心を持って、若い人達と共に、戦争のない世界の平和を祈念しながらボランティア活動を行きたいと思っています。

ネパール青少年 赤十字メンバーと交流

十一月二日(水)

参加五名 銭太鼓指導協力者一名

一昨年四月の巨大地震で死者八千八百余人、レンガや小石造りの全半壊家屋八十八万戸の大被害を受けたアジアの最貧国ネパールから、共通の悩みを抱える日本へ「防災教育・災害対応」の研修に、十五才の少年少女二人がやって来ました。

松江では、ホームステイや高校・大学奉仕団員と交流、地域の防災対策や赤十字・原子力関連施設見学の外、ヒマラヤのエベレストがそびえる山岳国に住む彼等は、日本海の眺望を希望する等、密な日程を消化して、最終日の午後みずうみ赤十字奉仕団と会合しました。

インド系のくつきりした目鼻立ち、素直で大らかな性格、滑らかな英語を話す好印象の中・高生でした。

突然襲ったM7.8の大地震に、勉強中だったアヌーバ君は窓から飛び降り、就寝中だったブッシュバさんは、母親に揺り起こされ屋外に脱出！ 数秒を争う運命を分けた瞬間を再現し、一命をとりとめた恐怖の体験を、声を震わせ話してくれました。

私達は日本の伝統文化でもてなしました。銭太鼓は「桃太郎」。童話本を読んでは、三谷団員に習い懸命に打って汗を流し、安来節の模範演技に圧倒され、次は初々しい浴衣姿でお茶を味わい、全てに興味津々でした。折り紙は慣れた手つき：？？アヌーバ君は、くちばしが動くカラスを折って私達を驚かせました。

思えば、元鳥取医大助教授岩村昇医師夫

こんにちは

新年に思うこと

吉岡 笙子

西年の平成二十九年が明けました。私の所属している会の会長が挨拶で、「酉年はいろいろな変化がある年であり、それに対応していく力が必要だ」と言われました。

みずうみ赤十字奉仕団に入団させていただいて早や八年余りになります。

団員の皆様にいろいろな行事を通してお付き合いさせていただいていますが、皆様それぞれに個性豊かで、魅力的であり、逞しさを持っておられ、いつも影響を受けています。今年も起きるであろう変化に対応していく力をもらっている気がします。

マスクミ等で取り上げられている新年に寄せる言葉は様々あると思います。私は、昨年は受身ばかりで過ごしてきたように思われ、今年は少しでも向上したいので、「向」という言葉を目標にしたいと思う昨今です。



銭太鼓を打つ



和菓子和抹茶に挑戦



高尾綾子さん作品 松月堂古流

妻は、職を辞しネパールに入国、十八年間医療や教育支援の草分けをされました。募金活動の為帰国された際、講演で受けた学生時代の深い感銘が甦り、以後も脈々と継承されている日本文化の浸透と成果、親日国ネパールを見た思いでした。

彼らには、日本での学習や体験を将来に活かし、自国発展の牽引車に大きく成長して欲しいと願いました。

(太田)

だより
あれこれ

平成二十八年

鳥取県中部 地震災害義援金

十一月二日(水) 二万円寄託

十月二十一日鳥取県倉吉市、湯梨浜町等、震度6弱の地震が襲い住居が損傷、国の重要伝統的建造物保存地区の被害が惜しまれました。隣県の復興を願う義援金を寄託しました。

病院ボランティア

●表彰

十二月二日(金) 於 日赤病院
病院ボランティア交流会(参加五名)が行われ、累積三百時間を越えて奉仕された大和友子さんが表彰され、その労をねぎらわれました。御苦労様でした。おめでとうござい
ます。

●団員交流会

平成二十九年三月七日(火)
支部に於いて、団員(参加十名)間の会合が持たれ、次年度に向け、より良い奉仕を求めている意見交換が行われました。

10/12

水

松徳学院高等学校生と
災害時炊き出し
(カレーライス) で交流



12/11

日

NHK歳末・海外
たすけあいフェア(バザー)



12/15

木

年末義援金贈呈



2/8

水

松徳学院高等学校生と
ちょうちょキャンペーン



2/24

金

赤十字を知る会



2/24

金

赤十字健康生活支援講習



風呂敷リュック



毛布でガウン

3/11

土

街頭募金
「3.11を忘れない」



偲び草

武田雅子様
ご冥福をお祈りいたします

武田雅子様(享年七十七才)が昨年十二月三十日急逝されました。同月十一日のNHKたすけあいバザーでは、元気に活動されるお姿を拝見していただいたので信じ難い悲報でした。みずうみ奉仕団の事業には率先して参加され、団員に励ましの声かけをしてくださいました。有り難うございました。

合掌



平成28年度事業報告

1. 総会
4月14日(木) 日本赤十字社島根県支部 参加24名
講演:「カンボジアの子供たちの幸せを願って」
松本 成 氏
2. 熊本地震災害義援金募金活動
4月30日(土) 松江市ボランティア連絡協議会主催
松江城 参加3名 143,856円
5月8日(日) JR松江駅 参加14名 101,849円
3. 赤十字運動月間広報キャンペーン
5月15日(日) イオン松江店 参加5名
4. 松江市ボランティア連絡協議会総会
5月25日(水) 松江市ボランティアセンター 参加1名
5. 日本赤十字社島根県支部赤十字奉仕団委員長協議会
6月19日(日) 日本赤十字社島根県支部 参加1名
6. 古布ふきんづくり(午前)と赤十字救急法講習会(午後)
6月22日(月) 日本赤十字社島根県支部 参加15名
赤十字救急法講習会指導員 本田 坦 氏
7. 団員交流親睦会
7月19日(火) 参加15名
「忌部浄水場」見学とランチで親睦
8. 戦争犠牲者慰霊塔清掃・供養と古布ふきんづくり
9月16日(金) 緑山公園 参加10名
古布ふきんづくり 参加14名
9. 松江城・街美化ウォーク
9月24日(土) 松江市ボランティア連絡協議会主催 参加2名
10. 松徳学院高等学校とのふれあい交流会
10月12日(水) 赤十字について、みずうみ赤十字奉仕団について 参加2名
「災害に備えて」ハイゼックス袋でカレーライスを作る 参加7名
2月8日(水) 地雷魔絶ちょうちょキャンペーン実施
891枚 参加5名
11. 病院ボランティア活動 12名
松江赤十字病院で 月～金 9:00～11:30 1人ずつ
第13回松病ボランティア交流会 12月2日(金) 参加5名
団員交流会 3月7日(火) 参加10名
12. 乳児院ボランティア活動 15名
松江赤十字乳児院で
第一土曜日・第三日曜日(月2回) 9:30～11:30 数人ずつ
13. 第7回赤十字救急法競技大会 三角巾包帯法の部
10月16日(日) 島根県立武道館 参加6名
14. ネパール RCY との交流
11月2日(水) 日本赤十字社島根県支部 参加5名 協力1名
15. NHK歳末・海外たすけあい
オープニングセレモニー 12月1日(木) 参加者2名
フェア 12月11日(日) いきいきプラザ島根 参加18名
16. 赤十字を知る会と赤十字健康生活支援講習会
2月24日(金) 参加15名 日本赤十字社島根県支部
「赤十字について」「みずうみ赤十字奉仕団について」
日本赤十字社島根県支部
事業推進課長 天野 仁美 氏
赤十字健康生活支援講習会
赤十字健康生活支援講習会指導員 河野 操 氏
17. 高齢者施設訪問 古布を持って
3月22日(水) 長命園・津田の里・厚生センター八雲寮・
釜瀬クリニック 参加6名
18. 地雷ちょうちょキャンペーンまとめ
2月10日(金) リズムネットワーク事務局あて
5,893枚発送
19. 「忘れない3.11 東日本大震災街頭募金」
3月11日(土) JR松江駅 参加3名 120,308円
20. 赤十字社員加入・社賛募集 51名 133,131円
21. 年末義援金
日本赤十字社島根県支部を通じて県内の児童福祉施設へ
12月15日(木) 241,000円
22. 特別義援金・救援金
熊本地震災害義援金 30,000円
鳥取県中部地震災害義援金 20,000円
NHK海外たすけあい救援金 10,000円
東日本大震災義援金 20,000円
23. 情報誌「レッドクロスみずうみ」発刊
第41号(9月) 第42号(3月)
24. 役員会 4月28日(木)・11月24日(木)・3月22日(水)
日本赤十字社島根県支部
25. 第11回松江市ボランティアフェスティバル
3月26日(日) スタッフ参加2名

年末義援金贈呈先

双樹学院・安来学園・聖煌寮・さざなみ学園・
くろみ学園・こくぶ学園・仁万の里・松江学園・
松江整肢学園・わかたけ学園・松江赤十字乳児院・
島根整肢学園・みらい

あとがき

今冬は日本列島が稀に見る寒波にお
それ、鳥取方面は三十三年振りの記
録的な大雪となり、連日のようにニユ
ースで流れました。

が、徐々に春陽を浴びて露のとうの
顔が覗き、木々の芽吹きと共に春らし
くなり、何とも云えぬ心地良さを感じ
るこの頃です。

さて、第四十二号の「レッドクロ
スみずうみ」ができあがりしました。

日本赤十字社島根県支部事業推進課長、天野
仁美様の巻頭言をいただき、「できる時
に、できることを、無理することなく……」
とのお言葉を胸に、少しでもみずうみ
赤十字奉仕団員として貢献出来る様心
掛けて行きたいと思っています。

今回の発刊に向け御寄稿下さいまし
た方々に感謝申し上げますと共に、一層
のご協力よろしくお願い申し上げます。

(梶)

ザレッドクロスみずうみ第四十二号

平成二十九年三月三十一日発行
発行者 松江市内中原町四十番地

日本赤十字社島根県支部内
みずうみ赤十字奉仕団
委員長 大塚 良子

編集委員
◎太田 裕子・大和 友子
梶 啓子・原田美智子
天野 仁美

印刷所

印刷所

〒(有)太 陽 平 版
(〇八五二)三八一八〇五八